

イタヤカミキリ

ヤナギ類やハンノキ類の幹の細い部分の材内に穿孔するイモムシ（幼虫）。最大長約40mm。幹に穴が開き、木くずがでる。成虫はカミキリムシ，最大長約25mm。体は黄土色，さやばねにぼやけた白い斑紋がある。枝の樹皮を食べる。

【学名】 *Mecynippus pubicornis*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），カミキリムシ科（Cerambycidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州。

【生態】

卵から成虫まで普通2年かかるといわれている。成虫は夏に発生する。雌成虫は樹皮に5～20cmの縦長の噛み傷を付け産卵する。産卵は小さな木の幹（直径2～5cm）に行われるといわれている。幼虫で越冬。

【被害】

山地生といわれ，川岸のヤナギ類や山地のハンノキ類で発生するとされる。道内での被害実態はよく分かっていない。

【文献】

1994. 遠田暢男. イタヤカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 224-225. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

イタヤカミキリ kamikiri/hannoki/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/30.